チョウとの出会い：シロミスジ　961015, 90411, 200402

Oct. 11, 1996：与那国島アギンダ

そろそろ引き上げようかと自転車にまたがったその目の前に、いきなりタテハチョウが飛来する。ピッタリと合わせ閉じた翅裏のこれまで見たこともない模様と色調は図鑑でのみ知るシロミスジ。これほど美しい色調だとは思いもよらなかった魅力的な蝶だ。ゆっくりと自転車を立て直し、ネットを広げている間この蝶はじっとしていてくれた。横払いに初めてのシロミスジ捕獲となる。残念ながら完全体ではない。たぶん野鳥についばまれたのだろう、後翅がほぼ左右対称に破れてしまっている。

June 11, 1998：与那国島祖納

アギンダの上り口にある水場でタイワンアオバセセリが産卵活動をしている。上流谷川沿いに群生するオオイワガネにヤエムラ発生の徴候はなし。リュウキュウムラサキの新鮮♂が遊んでおりネットイン。ツマベニチョウも林縁に少なくないがネットが届く範囲にはこないので先を急ぐ。急坂カーブ左の畑地で行止まりとなる道に入るとツマベニやタイワンシロが多い。新鮮体ではないシロミスジが遊んでいる。努めて自然なすがたをカメラでねらう。

June 13, 1998：与那国島祖納

16 時の飛行機の時間まで祖納近辺のポイントで探索するべくもどる。前回宿泊の世話になったホワイトハウスの近くでフクギが果汁にみちた実をつけている場所にシロミスジを発見。初めて限りなく新鮮に近い個体がいてうれしくなる。その後もフクギ果汁を目的として 2-3 頭が次々と現れ、ルリタテハ亜種（ルリイチモンジ）も混じる。このわずかな広場の奥はそのまま深い樹林が勾配をあげてティンダハナタの崖につながっており、樹冠にはツマベニチョウが蝶道を形成して飛び交い、足もとの道路沿い草地の日陰ではリュウキュウヒメジャノメが休憩している。明るい日向ではタテハモドキとツマグロヒョウモンが仲良く遊んでいた。

Dec. 2, 2012：与那国島ギンダ

センダングサ周辺をフワリフワリと飛び交うクロテンシロチョウなど可能な限りのビデオ撮影をしている間に、妻が「こんなチョウが採れたよ」と見せにきたのは見事に新鮮なシロミスジだ。先ほど、ブッシュ奥で翅を開くシロミスジにカメラを向けながら飛び去られており、このような新鮮個体をネットインしてくれたのには驚いてしまう。

Copyright© 1996- Soft House JUMP. All rights reserved.